



2022年7月号

No.218

ウトナイ湖通信

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 開設 20 周年

2022年7月28日で当センターは、開設20周年を迎えます。日本で最初の「野生鳥獣との共生環境整備事業」による施設として、環境省が設置し、苫小牧市と共同管理してきました。これまで、ウトナイ湖の自然環境や野生鳥獣についての展示・解説や情報提供を行なうビジターセンターとして、野生鳥獣との適正なふれあいかたの普及啓発、鳥獣保護区周辺地域の傷病鳥獣の収容やリハビリセンターとしての機能を果たして参りました。

さらにウトナイ湖の自然と直接ふれあうことが出来るよう、日本野鳥の会ウトナイ湖サクチュアリ・ネイチャーセンター周辺まで、自然観察路を設置しています。

これまで多くの皆様にご支援いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。



ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

これからも、様々なサービス、新たな展示を提供していくよう努力して参ります。変わらぬご支援の程よろしくお願いいたします。



当センターオープン記念式典の様子



今とは違うルートだった自然観察路

特別展示やイベントを開催します

当センターの移り変わりを皆さんと振り返る「取り巻く環境の移り変わり」、「開設からのウトナイ湖の野鳥と自然～積み重ねた調査の先に見えたものとは～」、「ウトナイ湖の鳥たち・剥製展」等の展示や、当センターのボランティア奥山博美氏による点描画展、子ども向け傷病鳥獣救護のクイズなども行ないます。

また「野生動物に学ぶ救護セミナー」、「子どもスペシャル」、「アイロンビーズ制作」、「ポンポン作り」、「バックヤードツアー」などのイベントも行ないます。詳細は、最終ページをご覧ください。

今回のアイロンビーズ制作とポンポンづくりは、シマエナガです！



普段見ることが出来ないバックヤード

【自然観察路情報】 観察された生きもの

2022年6月19日（日）10：00～11：50

《野鳥》 キジバト、アオサギ、ツツドリ、カッコウ、トビ、オジロワシ

ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ

センダイムシクイ、クロツグミ、キビタキ、ビンズイ、ベニマシコ、アオジ



アオジ



キビタキ



ベニマシコ



ハシブトガラ

《植物》【花】 ツリバナ、マユミ、カンボク（花と装飾花）、ヤマハタザオ、ハルザキヤマガラシ
オオダイコンソウ、クサノオウ、ヤナギトラノオ、オオヤマフスマ、エゾノレンリソウ、コウホネ

【つぼみ】 ヤマウルシ、ホオノキ、ナワシロイチゴ 【実】 エゾヤマザクラ、ヤマグワ

【若い実】 ミヤマザクラ、ハスカップ、エゾニワトコ 【仏炎苞】 マムシグサ



フタスジチョウ

《昆虫》 シオヤトンボ、ハナムグリ、ナガメ、クロヒカゲ、フタスジチョウ、ルリハムシ、ハンノキハムシ、ヤナギシリシロゾウムシ、エゾハルゼミ（声）、ヒメギスの仲間、ヒトリガ（幼虫）、オビカレハ（幼虫）、クロヤマアリ（巣）《その他》 オカモノアラガイ（かたつむり）、エゾシカ

【水鳥カウント調査結果】

2022年6月12日（日）15：00～16：00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 *（）内は個体数

マガモ（2羽）、アオサギ（4羽）、トビ（10羽）、オジロワシ（3羽）



オジロワシ



アオサギ

7月の自然予報

夏の花が開花します♪



ホザキシモツケ

湖岸や木道脇などに、7月上旬～中旬ごろ見られます。

本州では、あまり見られない花で、湿地を好みます。一面に咲く景色を楽しめます。



トモエソウ

林の木道脇などに、7月中旬～下旬ごろ見られます。

花は直径3cmほどで、巴（ともえ）模様に見えます。



ノコギリソウ

湖岸沿いの木道脇などに7月中旬ごろ見られます。

葉がノコギリのようにギザギザしています。

他の植物より一足早く、実をつけます。



カラコギカエデ

木道脇などに木があります。プロペラ型の実が、赤くなり始めます。



エゾニワトコ

春早く花が咲いたエゾニワトコ。一足早く、真っ赤な実をつけます。実はヒヨドリなどの野鳥にも人気です。

ウトナイいきもの図鑑

【アオバト】

全長 33cm

ウトナイ湖には、春に夏鳥として渡ってくる。緑の葉が茂る中では見つけづらいものの、「ウアーオ、アーオ、アーオ」という、独特な鳴き声が、木の上から聞こえる。サクラの実などを食べる。

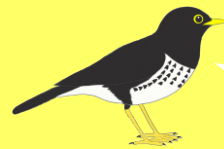


写真：奥山博美氏

ウトナイ検定

*ウトナイ湖に関するクイズ
毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。
あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q. 夏。ウトナイ湖の林や、センター周辺で大きな声(オスのさえずり)が聞こえるのに、その姿が、なかなか見られない野鳥は？



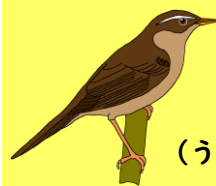
(あ) クロツグミ

「キョロン、キョロン、
チョコ、チョコ」



(い) キビタキ

「ピョリリ、ホーヒッヒー、
ホーヒッヒー、ホー」



「ジョツ、ジョツピン、
カケタカツ」

(う) エゾセンニュウ

答えは最後のページです。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端を皆さんに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

アカハラ

原因：連絡船に不時着

搬入時の様子

体重 47g



経過観察時の様子

- 4月13日 東京から苫小牧の港へ着いた連絡船の上
にいたところを発見され、発見者が一時保護。
小鳥のエサを与えて様子を見ていたが、2
日後に保護センターへ相談し、その翌日に
保護センターへ搬送される。初診では明ら
かな外傷は認めなかったが、体重が標準よ
り軽かったため、エサを十分に与えて経過
観察。
- 4月17日 リリース 飛翔能力に問題なかったため、翌日リリ
ースとした。

アカハラ（スズメ目 ヒタキ科）

全長24cm。雌雄とも上面が褐色、脇腹が橙色です。オスの成鳥では、顔に黒色みが強く、メスや若鳥には細い淡色の眉斑があります。今回の保護個体はオスの成鳥でした。平地から低山の森林や河畔林などで生息し、地上でミミズや昆虫類などを捕食しますが、秋には木の实なども食べます。

開設20周年記念イベント

野生動物に学ぶ救護セミナー

日時：7月23日（土）10:00-12:00
 場所：ウトナイ湖野生鳥獣保護センター
 対象：一般（小学生以下は保護者同伴）
 内容：『ウトナイ湖を取り巻く環境』
 定員：30名 申し込み順
 申込：7月1日（金）～電話で当センターへ
★1組に菓箱を1個プレゼントします♪



アイロンビーズ制作体験

日時：7月27日（水）11:00-12:00
 7月29日（金）11:00-12:00
 8月3日（水）11:00-12:00
 場所：ウトナイ湖野生鳥獣保護センター
 対象：一般（小学生以下は保護者同伴）
 内容：アイロンビーズでシマエナガを作ります。
 定員：各日 4組8人（1組1個まで）申し込み順
 申込：7月7日（木）～電話で当センターへ



ポンポンづくり体験

日時：7月26日（火）11:00-12:00
 7月28日（木）11:00-12:00
 8月5日（金）11:00-12:00
 場所：ウトナイ湖野生鳥獣保護センター
 対象：一般（小学生以下は保護者同伴）
 内容：毛糸でシマエナガを作ります
 定員：各日 4組8人（1組1個まで）申し込み順
 申込：7月5日（火）～電話で当センターへ



子どもスペシャル

日時：7月30日（土）10:00-12:00
 場所：ウトナイ湖野生鳥獣保護センター
 対象：小学3～6年生
 内容：『環境省と保護センターのお仕事体験』
 定員：10名 申し込み順
 申込：7月12日（金）～電話で当センターへ



■開館中、いつでもご参加、観覧いただけるもの■

子どもスペシャル・セルフバージョン

子ども向けの、傷病鳥獣救護に関するクイズです♪

第4回 奥山博美点描画展

はんだごて で板に焼き付けた
 野鳥や植物などの点描画です。



特別展示

「取り巻く環境の移り変わり」、「開設からのウトナイ湖の野鳥と自然～積み重ねた調査の先に見えたものとは～」、「ウトナイ湖の鳥たち・剥製展」等

バックヤードツアー

日時：7月28日（木）14:00-15:00
 場所：ウトナイ湖野生鳥獣保護センター
 対象：一般（小学生以下は保護者同伴）
 内容：普段非公開となっている傷病鳥獣の救護室を獣医師が案内します
 定員：10人 申し込み順
 申し込み：7月9日（土）～
 電話で当センターへ



お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖 7月10日（日）13:30～14:30

毎月第二日曜日
 開催中

対象：どなたでも（小学生以下保護者同伴）定員：先着 10名程度
 事前申込：なし。直接野生鳥獣保護センターへ※雨天時は、館内ガイドウォークに変更します。



◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。



◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。
 また、苫小牧市が業務の一部を（公財）日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時～午後5時 / 休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）及び年末年始

答え：(う) エソセンニューウ

長年バードウォッチングをしている人でも、その姿を見るのが難しいのがエソセンニューウです。藪に隠れ、枝を歩くように移動するため、見つけづらいのです。クロツグミやキビタキは、声のする方を見ると、姿を見られることがあります。短い北海道の夏、野鳥のさえずりが楽しめるのもあと少しです。

